

研究課題名	大腿骨近位部骨折症例に対する後期高齢者の質問票を用いた受傷前のフレイル評価
試料・情報の利用目的・ 利用方法（他機関へ提 供する場合その方法）	高齢者に多く発生する大腿骨近位部骨折（太ももの付け根の骨折）の身体機能の回復の見込みは低く、介助を必要としない自立した生活を表す健康寿命も大きく影響を受けるためその予防は重要です。骨折の原因としては転倒が最も多く、筋力や関節が動く範囲などの運動機能の弱さとの関係性は報告されていますが、今回の骨折は健康状態や栄養状態、認知機能など全身的な弱さを示すフレイル（年齢による心身全体の衰え）の影響も受けるとされています。しかし、本骨折を受傷された方に対して受傷前のフレイルの状態を評価した報告はありません。そこで、今回明らかにすることで本骨折を未然に防ぐ方法を見出すことが期待できると考えています。
研究対象者	2019 年 12 月以降にベルランド総合病院整形外科に大腿骨近位部骨折を受傷して入院し、下記の適格基準に該当した方 1) 年齢：60 歳以上 2) 受傷原因：転倒による受傷 3) 加療：手術、保存の制限なし 4) 受傷前の ADL：歩行可能 5) 既往骨折：反対側の大腿骨近位部骨折の既往なし 6) 認知機能：低下の疑いなし（改訂長谷川式簡易知能評価（HDS-R）にて 21 点以上）
利用又は提供する試 料・情報の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 年齢、後期高齢者の質問票、認知機能（HDS-R）
研究予定期間	機関の長の実施許可日 ～ 2024 年 8 月 31 日
試料・情報の取得方法	通常診療の過程で得られます
試料・情報を利用する者 の範囲	この研究はベルランド総合病院理学療法室のみで行います
試料・情報の管理について 責任を有する者の氏名又 は機関の名称	ベルランド総合病院 理学療法室 田中暢一
研究に協力したくない場合	研究への試料・情報の利用についてご同意いただけない場合は下記お問い合わせ先までお申し出ください。不同意の場合でも診療に不利益になることはありません。
利益相反について	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問合せ先	ベルランド総合病院 理学療法室 氏名：田中 暢一 メールアドレス：nob_tanaka@seichokai.or.jp 〒599-8247 堺市中区東山 500-3 TEL：072-234-2001（代）